



第 17 号
編集兼発行人
朝日町役場内
九里道守
印刷所 西越印刷

後上の史蹟を訪ねて



伊東彦四郎祐寿翁

雪におゝわれて、交通も半身不随に陥つたので、史蹟名勝巡りの外歩きをやめて、一先づ郷土の先賢を偲んで冬の間の誌面をうづめることとした、伊豆、炬燵の中などで、御読みを願ひ度い。

× × × × ×
加賀藩政の時代、越中の国三位組の十村役として、人も知る伊東家（泊沼保）八代の主、伊東彦四郎翁を

百数十年、当時のことも何時しか忘れ去られて、古老の昔語りにとどまるを遺憾に思ふ心や切なるまゝに、かくは筆をとりたる次第で

贈 彦四郎翁 伊東彦四郎翁遺像



の南部一帯の水田をうるおしている黒部の奥の山々から千古の雪をとがして流れる黒部の水のつきない如く翁の偉業は永劫に語り伝えられるであろう。

× × × × ×

彦四郎翁は、伊東家七代次郎左エ門祐章の嫡子で、宝暦八年（百九十九年前）泊沼保に於て出生、伊東家八代の主となられ、晩年僧となり天保五年四月二十日病歿せられた。時に歳七十七才で、その遺骨は泊町常光寺の墳墓に葬つてある。

名は彦四郎祐寿、字は公肩、又は竹堂と号し、別に栗俣、童子などの号があつた。

翁は祖先以来十村の職を世襲する家に生れ、安永二年、十六才にして

父次郎左エ門祐章の名代として公職につかれ、晩年に至る迄、五十年一日の如く組内の殖産興業に意を用いられ、農耕を勧奨奨励し、農民を補導扶掖するに努め、最も力を拓地開墾に尽されたが、中でも、愛本新用水の開きと棚山野の開きの事業は実に偉大なものであつた。

愛本新用水

下新川郡舟見野の曠野は、水利無ければ、唯荒れるにまかせ、住民は

飢寒に堪えず難散する者が多かつた翁は此の惨状をうれいられ、是を救うの道は灌漑の利を計るにありとて、こゝに黒部川より一大用水を通じて收穫を増さんと謀られ、つづさに用水開きの方途を講ぜられて加賀藩に申請に及ばれた。当時、藩に於ても財政窮乏し、而も此の工事の容易ならざるを以て、その費用の支出を許さなかつたが、翁のうまざる請に、藩主治脩公も、翁の熱誠に感ぜられて、内帑を節し、数年間に於て十五万両を得、之を翁に与えられた。翁の喜びは申すまでもなかつた。そして直ちに着工したので寛政八年八月のことであつた。然しこれは試験的な工事であつて、同十年春本格的な工事を進められてより、享和二年（百五十五年前）冬に至つて完成したが、此の間更に七ヶ年の日子を費やされた。これが愛本新用水である。（次号へ）

郷土写真風物詩 “越路の冬”

郷土の冬の風物詩、それは何と云つても雪景色だ。白雪におゝわれ、た無垢の世界に、北陸人は一しおの感懐を懐き得ない無限の天空からテラリ、ホラリと落下して来る雪、地上の物皆をうすめつくして、一切の煩を、おゝい去つてしまふ。



町政日誌

- 十二月
- 一四日 選挙管理委員会
 - 一八日 経済委員会
 - 二一日 総務委員会
 - 二四日 定例議会
 - 二六日 山崎小学校上棟式
教育委員会
- 一月
- 一日 新年祝賀名刺交換会
 - 四日 役場事務始め
 - 六日 朝日町消防団出初式
 - 一〇日 経済委員会
 - 一一日 総務委員会
 - 一二日 文庫委員会
 - 一三日 宮崎停車場設置特別委員会
 - 一四日 選挙管理委員会
 - 一五日 成人式
 - 一七日 産業委員会
 - 一八日 議会

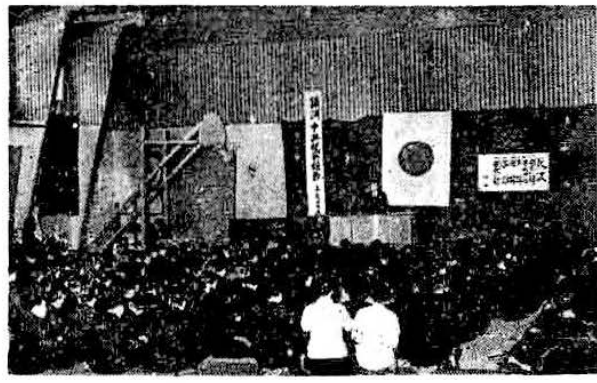
成人式

成人の皆さん
おめでとう

朝日町の成人式は一月十五日午前十時から泊中学校講堂において行われた。

坂東教育委員長の式辞に始まり、金森町長、清水議会議長、水島朝日連合青年団長の祝辞があり、成人代表中野啓昌君の答辞があつて式を終了した。

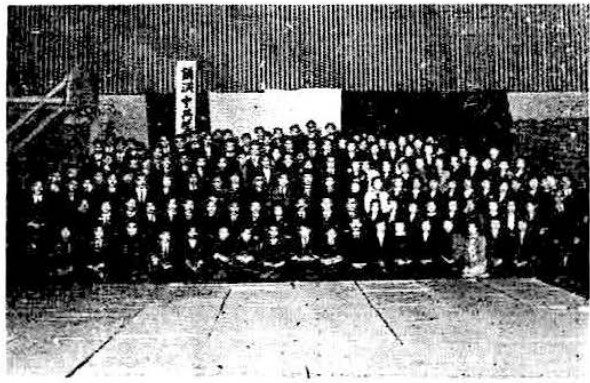
今回は初めての朝日町合同の成人式であつて当日成人者一七五名、来賓四五名の出席があり盛會裡に終つた。



答 辞

歴史の書をひもときますに昭和十一年、二年には日本は、自らの力をひたすらに信じ、あのいまわしき第二次大戦の前兆をなしておりました。昭和十一年二月の二・二六事件、十二年の支那事変の勃発等、こういふ内に私共は人間としての第一声を揚げたのであります。

以来二十年、世界は大きく変わりました。然し私共をみ護り育てて下さ



年頭の辞

朝日町長 金森 吟

成人者代表 中野啓昌

今日より私等は社会のために尽さなければなりません。否、こゝで社会に尽すことにはつきり誓ひ度いと思ひます。然し残念ながら未だ若年でございませう。無思慮な行動に走らんとする事も稀でないと思ひます。どうかよろしく御鞭撻賜わらんことを御願ひ致します。最後に今日かくも盛大な式典を挙行された事を深く喜びと致す次第でございます。

使ひ古された言葉かもしれませんが、私等は若い社会人として強く、明るく、正しく生きて行き度いと思ひます。我々の郷土のために。日本のために。そして世界のために。



わが朝日町では町民各位の御協力により予て念願した円満和平を以てする一体性の確立、健康町建設への体育の生活化、さては簡水地域の拡大等保健衛生上一段の進歩を遂げ、更に単作地農業対策としての有畜農業を始め、蔬菜、園芸の改良普及に努め所謂

全消化の観点からすると昨年文化農村の表彰を受けた三枚橋部落に並ぐ第二、第三の三枚橋部落の現出を喜ばずには居られないのであります。次に山崎地内の奥地林道もその後国営事業として継続中で今明年度中には完成致しまして、あこがれの千古斧鉞を入れないという大森林に達し資源の開発と共に泊駅ホームを賑わす事を思う時転た快心の情に堪えません。また予て計画中の農業センターも産業教育指定学校の小川中学校附近の適地に決定し、既に基礎と地階の一部とが出来、本年度中には全部の建設を終り、センターの使命達成に発足せんとして居ります。

伝言板



野犬の掃とうに御協力下さい

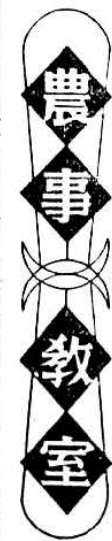
富山県では未登録の犬及び狂犬病予防注射をうけていない犬の抑留、(捕殺)を一月十日から三月三十一日までの期間に亘つて実施される。本町では未登録、未注射の犬が多いので、大変危険なことで、県から派遣される狂犬病予防員(身分証明書持参)がまわつて来たら御協力を願ひ度い。

登録犬及び予防注射を受けている犬は町から交付されている鑑札など表示していただき度い。

今年の稲作対策の基本

稲作技術の根本が気象、土壌、水利等水田の立地条件や経営上等の自然的、社会的環境と品種、栽培法等の耕種を合理的にするのは当然であり従つて、たとえ天候が予知出来たにしても、その対策は処に依り、或は一筆毎にたてねばならぬ。まして、天候は予知出来ないものであるから、夫々に応じた対策が必要ではあるがその基本となる点について考えて見よう。

(1) 品種 品種に対しては特に病虫害の点について選択して頂くことが大切である。土地に適した品種特性を充分考慮すること。果全体としては一応奨励品種と認定品種がある。展示圃の成績から見ると豊年早生新優が面白い。豊年早生は穂数型の品種で地力



上位の田で作ること。新優には刈取期九月二十五日頃であり地力中位の処でも良い。朝日町は早生が大変多いので中生種も取り入れることです。金南風は熟期が十月二十日頃です。から一考する必要がある。少くとも四、五品種を栽培することが天候に左右される心配が少ない。

(2) 選種、種子消毒、種子消毒、選種はやはり稲作の重要役割をもなしているものである。良い種子でないと増収は期待出来ない。塩水選したもののは水選したものより反収二、三斗増収となるのである。(3) 健苗の育成、今年こそ全部保温折衷苗代で健苗を作つて下さい。昔から苗作りの大切なことが皆さん承知のことですが苗作りに努力して

下さい。(4) 早播、早植、早播きは四月五日頃からで良い。早植は十月十日頃からの初期生育を安全確保し、強勢穂数の増加、特に朝日町としては大切である。(5) レンゲの早期スキ込み、反当り三百メ以内の施用、田植、二週間前までは鋤き起すことが必要です。(6) 施肥の適正 窒素肥料の過施は危険である。此処二三年は豊作であつたから特に危険である。水稲は肥料で米が取れるものではない、地力で米を取るものである。耕種改善試作圃では反当窒素二、百で反収三三三斗の米が取れている。窒素肥料で今年も石灰窒素が電力事情、社会情勢からして二十

減産されるから外の肥料で施す準備をして下さい。

価格は(成分単価)

硫酸安	一〇〇として
石灰窒素	一〇五
尿素	九六
塩安	九七

(7) 病虫害対策 黒穂象は七月上旬、共同防除一斉薬剤散布する体制、特にいもち病については葉いもち病は早期発足、個人防除であるが、ホ首いもち病については共同防除が一番大切であり素代も安くつくのである。セレンサン石灰は一回はホ首防除に散布すべきである。ホ首いもち病は発生したら終りである。いもち病以外の病気に防除に薬剤の効果がある。

紋枯れ病の被害が年々目立つて来

た。ツゼニットと云ふ農業が効果がある。本田管理、田干しが稲作技術上重要なことになった。田植後十四日以内に田干しをするこ

二月一日 農業基本調査実施

この調査は、富山県統計調査条例並びに富山県農林水産業統計調査規則にもとづく調査で、各市町村の農林水産業調査委員によつて実施されることになった。

調査要領は次のとおりである。昭和三十一年度 農業基本調査要領

- 一、調査の目的 本県農業の実態を明らかにし、県並びに市町村農業諸施策の基礎資料を得ることを目的とする
- 二、調査の期日 昭和三十一年二月一日
- 三、調査の範囲 調査の期日において、県内に現存するすべての農家について行う この調査において「農家」とは世帯員中に次の規模以上の農業を営むもの、いる世帯をいう。
- (1) 経営耕地面積が五畝以上であるもの
- (2) 経営耕地面積が五畝未満であつても次に掲げる事項の一

ためレンゲ稲作の場合は特に田干しが大切である。即ち土壌中の酸素不足からヒツコミが起り易い。水稲の地下部の機能障害が出るからである。有効分蘗は六月中であるから六月の末に云々ゆる土用干としていねの生

- つに該当するもの
- イ、温室を経営するもの
- ロ、家畜を飼育管理して、年間五貫以上の収入高(上欄)のあつたもの
- ハ、家畜、家さん及び蜜蜂を次の基準以上飼養しているもの
基準 牛一頭・豚二頭
めん羊三頭・鶏二〇羽
馬一頭・山羊三頭
兎一〇頭・蜜蜂三群

- 四、調査事項
- 1、常住世帯員数及びその就業状況
- 2、出稼世帯員数
- 3、常住世帯員のうち十六才以上三十才未満の男子の動向
- 4、過去一年間の出生、死亡、転入転出状況
- 5、兼業の状況
- 6、農業収入別農業経営の状況
- 7、経営耕地面積 (所有地、借入地別)
- 8、水田の利用状況

育促進を計ることである。以上の点に注意して今年は技術で米をとる様にしませう。尚詳細の点については普及員等に相談して下さい。

- 五、調査機関
- 1、市町村長は直接知事の監督を受けて調査を行う。
- 2、市町村長は調査員の指揮監督にあたる。
- 六、調査の方法
- 1、調査事項の1から10までの事項については悉皆調査の方法により、調査員が担当調査区内を巡回し、面接ききとり調査を行う。
- 2、調査事項の11及び12の事項は表式調査の方法により、市町村長が農業協同組合等関係機関を通じて行う。
- 七、調査票提出の時期
- 調査員は調査終了後調査票を整理し、二月十日までに市町村長に提出する。
- 八、結果の公表
- 知事は、集計完了後すみやかに統計速報及び農業基本調査結果報告書によつて行う。



一月十五日午後一時、朝日町議場に於いて、初訓練並に、優良スカウトの表彰式を行った。会場にはBS隊十年の歩みを飾る各種の事業報告パンフレット数々の表彰状が展示され、一方には野営用具一式が天幕と共に張りめぐらされていた。初訓練は基本訓練に始まり、救急法など各

朝日町学校スキー

指導講習会

雪にめぐまれた冬を迎えスキーシーズンが来たとき、去る十二、十三の両日三峯スキー場で学校スキー指導講習会が開かれた。

受講者は各学校スキー指導の中核をなす新進ベテランいりまぜて約三十名、戦後新しいスキーの基本的な技術講習は絶えてなかつたため戦前派の先生方は汗だく十二日は強い北西の風と雪の中を大平教育長さんの力強い激励の辞にはじまり、講師の朝日町スキー倶楽部加藤太郎、松原達雄、松原清、広田敏雄、高松喜義長津尾の諸氏を中心に二班に分れてスキー指導の学年別展開にしたがい見本技術をイロハから熱心に受講

晩は現地の池の原吉田賢治氏宅に合宿、いりまぜでスキー指導の体験や危害防止について山の夜を語りあつた。

明けて十三日は快晴雪質上々、小中高校生も多数参加、講習はピツチ

朝日町

青少年補導連絡

協議会生れる

朝日町の将来をになう青少年の正しい育成は全町民の念願するところであります。戦後十年学校教育社会

教育の進展充実と共に青少年は新しい民主社会の育成者として着々成長しつつありますが、一方青少年をとりまく社会環境はすべてが好ましい生活環境とはいえず一部には不良化の傾向も見受けられる現状でありますそこで今回青少年に関係深い機関

があがり雪国の学童をきたえるスキー基本技術の向上に所期の成果をあげた。

両日終始指導にたずさわられた朝日町スキー倶楽部会長小川弥一氏は「戦後新しいスキー術にふれる機会がなかつた当地方の先生方が両日を通じて指導陣の合理的でしかも優美な技術に接し真面目な練習によつて滑降廻転すべて戦前に比べて格段の進歩がある。新しいスキーの基本技術を先生方が体得されたことは今後の学校スキーの普及と向上に深い意義がある」と講習会の成果を語つて居られた。



及団体が学校を中核として協力態勢をつくり青少年補導の連絡協議会をつくりました。十二月二十八日その

発会式をあげ青少年補導の連絡調査対策研究社会環境の改善に努力することになりました。この温い補導により朝日町の青少年が正しく健全に育成されることを喜びましょう。

尚役員は

会長

副会長

理事

校代表

榎木武夫

大平勝雄

伊東 率

町内各機関各団体各学

校代表

因みに朝日町スキー倶楽部では次のプランをもちスキーの普及と発達をめざし一般の参加を望んでいる。

(1) スキー学校(三峯スキー場)

一月二十七日

二月三日

二月十日

(2) スキーツアー

三月三日 鳥帽子から笹川へ

三月十日 蛭谷から三峯へ

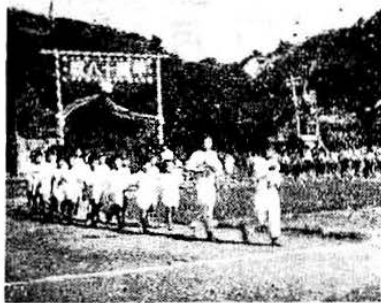
写真は三峯スキー場の講習会

創校八十周年を迎えた

笹川小学校

笹川小学校は明治十年盈進小学校として誕生してから本年は八十周年を迎え、去る一月一日意義ある記念式をあげた。

その間幾多の人材を育て卒業生を送ること一三〇〇名、校勢の発展につれ校地を新たにすること三度、現在の校舎は南に山を負い笹川の清流に臨むいわゆる山紫水明の地に位置し、昭和十八年戦争で物資不足の折に昭地区民の多大な熱意と犠牲によつて建てられたもので堅牢優美真に学園にふさわしい。こゝに学ぶ児童一八〇名は八〇年の伝統に護られ新し



い文化のいぶきに胸をふくらませて成長しつつある。

今度の八十周年に当り運動会、学芸会、昔の学校を語る座談会、卒業生記念演芸会、学校八十年史編さん裏山校庭の植樹など地区をあげてわれ等の母校の発展を祝福する記念行事や事業が行われている。

特に八十周年記念のおくりもの映写機は構造性能とも最新定評ある英国製のベル映写機で約三十万円地区民の寄金と県外にある同窓生の熱誠あふる母校愛の結晶に成つたもので学校としては待望久しいものであ

歳末たすけあい運動

地区種別 醸出金 醸出白米 醸出砂糖 配分世帯 配分人員

境	四、九〇〇	七升〇	二四	一〇八
宮崎	九、六九〇	二、五	四〇	一四〇
泊	四〇、三五八	五四、〇	八五	二五五
五箇庄	九、九五八	三〇、四	二二	六三
南保	九、二五二	二六、七	二九	一一二
大家庄	二、二九〇	九二、七	一七	五九
山崎	三、三九四	五六、〇	三六	一四四
野中	三、〇九〇		一一	五七
計	八二、九三二	二六九、三	五〇、〇	九三八
備考	醸出金全額を配分人員に応じ平等に配分した。			
白米、砂糖は北海道冷害救援物資として現地へ送付				
尚 砂糖五〇斤は泊高松英輔氏と福田光男氏の特別寄附によるものなり				

「昭和三十一年の文化活動を顧りみて」

去る十二月二十一日、午後七時より、朝日町議会議場に於いて、草の会では朝日町教育委員会、富山新聞社の後援を得ておこなつた。

此の座談会は各種文化団体の代表者が出席して開かれ、今まで活動して来た事を発表、此後も朝日町文化向上の為、各種団体はお互いに協力を惜しまない事を話し、有意義に終つた。

編集後記

客年末、日本の国連加入国際社会復帰と、誠に我々に明るい前途に希望を与えて、こゝに昭和三十一年の新春を迎えた。同慶の至りである。

朝日町は、地方財政再建促進特別措置法の適用を受けることになり、昭和三十八年度に至る再建計画の概要を発表した。ここに苦難の波路をのり越えて、明るい町造りその協力体制が、二万五千町民、打つて一丸となつて、作